

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>(1) 心身ともに健康な自立した社会人にするために、体育・徳育を重視し基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 問題解決過程を重視した授業を構築し、学習意欲を高める。 (3) 試行実践の場を活用することにより論理的思考力・問題解決能力・コミュニケーション力を高める。 (4) 社会貢献の観点に立った進路指導を展開する。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>(1) 良き生活習慣の確立。 (2) 学ぶ意味を理解させる授業の構築。(授業改革＝意識改革) (3) 人間力を高める生徒指導。 ～みんなが幸せになるために頑張れる力、それが人間力～</p>
---------------------------	---	-----------------	---

年度当初				中間反省・評価結果 (9) 月			
評価項目	具体的項目	現 状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
	①さわやかな挨拶ができる	<p>○全体集会や、授業で分離礼の励行に取り組み、一定程度の定着が見られるなど、以前よりは礼儀正しく、自主的に挨拶ができる生徒が増加している。</p> <p>▲一方で、分離礼の徹底が不十分なケースや、挨拶の声が小さかったり、気持ちのこもった挨拶ができない生徒も見られる。</p>	<p>・校内・校外を問わず、自然に自分から気持ちのこもった挨拶をすることができ、しかも状況に応じた対応をすることができている。</p> <p>・授業等において、分離礼の挨拶がきちんとできる。</p>	<p>・教務室や進路指導室への出入りの際の挨拶を徹底させる。</p> <p>・教職員から率先して挨拶を行うとともに、ボランティア活動説明会等とおして、「挨拶」の重要性を指導する。</p> <p>・授業をとおして、分離礼が自然にできるようになるまで指導を徹底する。</p> <p>・「挨拶」の励行とともに、よりよい人間関係の構築を意識した指導を行う。</p>	<p>○積極的に挨拶する生徒の影響が、他の生徒にもいい影響を及ぼしている。 ・自然に挨拶できる生徒が多い。 ・ボランティア説明会で挨拶の大切さを指導。生徒の挨拶状況も概ね良好。ボランティア団体からも評価いただいている。 ・廊下で自分から挨拶する生徒はS3、S2生は以前から多く、継続されている。S1生も入学当初よりも自分から挨拶できる生徒が増加。</p> <p>△進路指導室への出入りの際の挨拶はしているが、声の小さいものがある。用件を伝えるのは下手。 ・S1では、S2やS3の生徒に比べて、自発的に挨拶できる生徒が少ない。</p> <p>▲職員室や進路室の出入りの際の挨拶については、概ね出来てはいるが、気持ちの入ったものにはなっていないケースが多い。職員も注意をするケースがほとんどなく意識の高揚が必要。 ・授業の挨拶も形式的になっている感がある。挨拶から始まるという意識が学校全体でもう少しあってよい。</p>	C	<p>・職員自らの挨拶の励行と指導の継続及び徹底。 ・授業時における挨拶の意味を其の都度生徒に伝え、学校全体での意識をあげる。</p>
良き生活習慣の確立	②身の回りの環境を整える ・服装、清掃の徹底	<p>【服装】 ○定期的な各ステージでの服装検査を行っていることもあり、多くの生徒は落ち着いた服装になっている。</p> <p>▲生徒の一部にカーディガンの裾出しやスカート丈の短かさ、髪色の染色が見られたり、学校外での服装の乱れを指摘される生徒もいる。</p> <p>【清掃等】 ○清掃の意識は高まっているが、しっかりと取り組んでいる生徒はまだ少ない。</p> <p>○生徒の環境保健委員による点検に取り組んだ結果、持ち込みゴミの状況に改善が見られたが、一層ゴミの分別や減量への取組が必要。</p> <p>▲普段からゴミを拾う習慣がついていない。</p> <p>▲移動教室の落書きやゴミ放置など、モラルの低下が目立つ。</p> <p>▲部室のゴミの管理が不十分で、量が多い。</p>	<p>【学校生活全般】 ・社会生活を送る上でのマナーを守り、実践することができる。</p> <p>【服装】 ・ほとんどの生徒が高校生らしい服装をしている。</p> <p>【清掃等】 ・ゴミの分別に努め、ゴミの減量化について意識した行動がとれる。</p> <p>・清掃時間はもとより、普段から整理整頓に努め、ゴミ拾いを行うことができる。</p> <p>・自主的に時間一杯清掃に取り組むことができる。</p>	<p>【学校生活全般】 ・ボランティアの事前指導をとおして、社会生活のマナーを守る大切さを指導する。</p> <p>【服装】 ・指導に乗らない生徒については、多くの教職員が関わり指導を徹底する。</p> <p>・通学時の服装指導を徹底する。</p> <p>【清掃等】 ・機会あるごとに、ゴミの持ち帰り指導を徹底する。</p> <p>・清掃開始の時間を守り、清掃の徹底を図る。</p> <p>・ゴミの分別指導を徹底する。</p> <p>・部室のゴミ出し指導の機会を増やす。</p> <p>・清掃用具等の整備を行う。</p> <p>・LHR等を活用した清掃活動・美化活動に取り組む。</p>	<p>【学校生活全般】 ○ボランティアの対象者が誰かによって心構えを指導。生徒もよく理解し、マナーも向上しつつある。</p> <p>△指示には適切に対応できるが、自ら積極的に考えて行動する生徒はまだ少ない。 ・ボランティアの参加者は多いと感じるが、参加する上で意識については個人差がある。 ・敬語で話せない生徒が少数いる。</p> <p>【服装】 ○大半の生徒が守っており、指導の必要な生徒は減少している。</p> <p>△落ち着いているが、一部の生徒の服装が守られていない。</p> <p>▲夏、制服のボタンや袖折などを着る生徒が増加。</p> <p>【清掃等】 ○清掃、ゴミの分別は概ね良好。ゴミ量も減少。</p> <p>△ゴミの持ち帰りは徹底できつつある。ただし、校舎内は清掃が行き届いていない。 ・教員の指示がないと清掃中動けない生徒がいる。 ・清掃場所によって取組状況に差がある。 ・部室周辺の清掃はできているが、消灯等、管理面に課題がある。 ・清掃時間以外で美化に努める生徒は少ない。</p> <p>▲T E A Sの意識が低い。 ・部室のゴミの分別が不十分。 ・清掃時間以外にゴミを拾う生徒はまれ。 ・各ホーム以外の教室のホワイトボード(と、その周辺)が汚い。</p>	C C	<p>【学校生活全般】 ・今必要とされることを、自ら考え行動に移せるようになるには、豊富な経験が必要。ボランティアに一度参加して満足するのではなく、様々な内容のボランティアを何度も経験させられるよう支援していく。 ・部室使用法の徹底を部長会などを通じて、日頃から意識させる。 ・部室の管理については顧問が責任をもつ。</p> <p>【服装】 ・服装が守れない生徒への継続的な指導を実施。 ・恒常的及びその都度の生徒指導を継続。</p> <p>【清掃等】 ・清掃活動中の声かけを頻繁に行う。 ・教室清掃道具に雑巾を追加する。 ・徹底した指導の継続 ・生徒会・環境保健委員との連携を図る。 ・環境教育LHR・清掃活動LHRの充実。 ・清掃に頑張っている生徒やグループを褒めることで、自発性を養う。</p>
	③時間を意識した行動 ・4点固定 ・遅刻者減 ・提出期限厳守	<p>【時間】 ○遅刻に関しては、昨年度比で約60人減少。理由のある遅刻がほとんどで、特定の生徒による遅刻が多いなど、時間を守る意識は定着しつつある。</p> <p>▲時間を意識した生活ができるようになった生徒もいるが、全体としては大きな改善は見られない。授業の終始業の時間が特にルーズになっている。</p> <p>▲「生活の軌跡」(生活時間及び学習時間調査)を活用して生活リズムの確立に向けた指導を行ったが、帰宅後の時間を有効に活用できない生徒が見受けられ、4点固定には至っていない。</p> <p>▲1日や1週間単位といった短期間の計画立案・実行が十分にできない生徒がいる。</p> <p>【提出物等】 ○提出物についての意識の高まりは見られるようになった。</p> <p>○ミッタシステム(メール配信システム)を活用することで、事前に保護者へ配布文書を知らせることができ、生徒の渡し忘れは減少している。</p>	<p>【時間】 ・遅刻をしないなど、時間を守る大切さが認識でき、規則正しい生活を送ることができている。</p> <p>【遅刻者目標】 回数 一人年平均1回以下</p> <p>・4点固定を日常的に実施するなど、生活リズムが整い、学習習慣が確立している。</p> <p>【提出物等】 ・全ての生徒が期限内に提出物を出すことができる。</p>	<p>【時間】 ・携帯電話等の使い方が適切なものとなるよう、保護者と連携を密にする。</p> <p>・4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導を徹底する。</p> <p>・遅刻数等、生徒状況を常に把握し、タイムラグのない指導を心がける。</p> <p>・遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。</p> <p>【提出物等】 ・遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。</p> <p>【提出物等】 ・遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。</p>	<p>【時間】 ○遅刻・欠席は多くはない。 ・集会への集合は良くなっている。 ・携帯電話の使用、4点固定など、保護者会、面談などを通じ機会あるごとに保護者へ伝えた。</p> <p>△昨年度に比較して減少傾向にあるが、今後やや不安。</p> <p>▲学習への意識は高まりつつあるが、4点固定の定着には至っていない。 ・特定の生徒が遅刻を繰り返している。</p> <p>【提出物】 ○十分とはいえないが、多くの生徒は期限内に出している。 ・ミッタシステムが保護者への周知に有効であった。</p> <p>△ミッタシステムを活用し、提出物の期限が迫ったものには保護者にも期限の案内を徹底。しかし提出期限はまだ不徹底な生徒がある。</p> <p>▲提出期限を守れない生徒がいる。</p>	C	<p>【時間】 ・継続して生活の軌跡のチェック及び生徒面談の実施。 ・保護者連絡を積極的に行い、家庭の協力を得る。 ・生活改善が必要な生徒に対しては、多くの教員が関わり個別面談を行って生活改善を図るよう指導する。 ・担任だけでなくステージ全体で関わり、指導を徹底する。 ・携帯電話の使用についての指導を徹底する。</p> <p>【提出物】 ・あらゆる機会にミッタシステムの活用ができるよう、職員に活用を普及させていく。 ・提出物期限厳守の指導を今後も継続。必要に応じて個別指導を実施。</p>

<p>学ぶ意味を理解させる授業の構築 (授業改革＝意識改革)</p>	<p>①授業改革の推進 ・生徒主体の授業 ・思考を促す授業 ・分かる授業</p>	<p>○昨年度の授業研究会で、指導助言者から取組が授業研究本来の姿になってきたとの評価をいただくなど、教職員の意識も変化し、授業にも工夫が見られるようになってきた。</p> <p>○授業改革推進チームを立ち上げ、授業研究や生徒の現状について検討し、授業研究会などに繋げている。</p> <p>○ステージ集会等の機会に授業を活用する意義や有用性を指導、授業に取り組む姿勢が改善された。</p> <p>○授業アンケート結果では、生徒も授業の変化を意識して授業を受けている。</p> <p>▲落ち着いた学習する雰囲気が出てきたが、依然として授業に取り組む姿勢・課題提出状況とも特定の生徒の意欲が低い。</p> <p>▲積極的に活動しようとする姿が見られる一方で、生徒の主体性にバラつきがあったり、発言内容が乏しいものも多い。</p>	<p>・授業研究会の時だけでなく、日常的に相互に授業参観を行う。</p> <p>・生徒を主体とした授業構築ができています。</p> <p>・学びあうことのできる生徒が増加している。</p> <p>・生徒が目標を持って、主体的に授業に取り組むとともに、自ら思考し、論理的に自分の意見を言うことができる。</p> <p>・生徒が学ぶ過程を大切にし、学術的な思考能力を備えている。</p>	<p>・授業を充実させるため、教材研究の時間を確保できるよう業務改善に取り組む。</p> <p>・校内での研究授業を継続し、より充実した授業の実践に取り組む。</p> <p>・授業アンケートをとおして、授業改革の推進を図る。</p> <p>・生徒に自習の方法を指導し、学習に主体的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>・「授業」第一の姿勢で臨み、教職員、生徒ともにその意識を喚起する。</p> <p>・先進校視察をとおして授業改革の推進を図る。</p> <p>・記述・論述する機会を増やし、論理的思考する習慣をつける。</p>	<p>○・授業における工夫は、個人や各教科で行っている。</p> <p>・授業改革に対する教職員の意識は高まっている。</p> <p>・記述力・論述力の育成は出来つつある。</p> <p>・生徒が考える授業作りは増加している。</p> <p>・授業で論述する機会が増え、生徒も積極的に参加している。</p> <p>△・研究授業は一部を除いて進んでいない</p> <p>・生徒が自主的に学習に取り組む姿勢の育成については、まだ不十分。</p> <p>▲・自習の管理（生徒の自習力向上を含む）が出来ていない。</p>	<p>C</p>	<p>・機会をとらえて「授業第一」の姿勢の重要性を説明し、より一層高い意識の喚起を促す。</p> <p>・個人での授業の売り買い等をして、自習時間をなるべく出さないように工夫する。</p> <p>・自習の仕方を教え、適切な課題を用意する。</p> <p>・授業内で質問、教え合いの時間を確保する。</p> <p>・教員の自主的な取組を継続していく。</p> <p>・授業について、教職員間で意見、情報交換する機会を増やす。</p>
	<p>②家庭学習時間の確保 ・学習意欲の喚起</p>	<p>○家庭学習時間については各ステージとも昨年度よりも改善。</p> <p>▲「生活の軌跡」を活用して生活時間管理を自分でマネジメントできるように取り組んでいるが、帰宅後の時間を有効に活用できない生徒が見受けられる。</p> <p>▲調査前だけの学習や課題を提出するだけで満足している生徒もあり、学ぶ意義について十分に認識できているとは言えない。</p> <p>▲課題提出は多少改善されたが、課題の意味が理解できていない生徒が多い。また、課題未提出者や追試験受験者が固定化しているのが現状。</p> <p>▲授業改革と意欲喚起との結びつきがまだ弱い。</p> <p>▲学習企画（学力向上）委員会で学力向上や学習意欲喚起に向けた検討を行っているが、成果の挙がるような具体的方策を見出し切れていない。</p> <p>▲各生徒の不得意科目についての対策が不十分などところがある。</p>	<p>・授業を中心に予習・復習を行い、一定の家庭学習時間が確保できている。（5割以上の生徒）</p> <p>S1・2：2時間以上 S3：3時間以上 (部活動引退後は5時間以上)</p> <p>・学習目標を明確に持ち、積極的に学習する生徒が増加する。</p> <p>・生活時間を検証し、生活時間の有効利用を図ることで、学習時間の確保に努める。</p>	<p>・携帯電話等の9時以降の自粛を粘り強く指導する。</p> <p>・模範的生活習慣を提示し、生活の軌跡を確実に記入させるとともに、生活の軌跡を活用した面談をとおして、時間と生活の管理を意識させる。</p> <p>・小テストをはじめ、調査に対する準備を徹底させる。</p> <p>・4点固定の観点から、学習の始まりの時間を固定させるよう、家庭への協力を依頼する。</p> <p>・達成感、自己肯定感を得られる授業の構築に努める。</p> <p>・提出物を期限内に提出することについての意義を繰り返し理解させる。</p>	<p>○・テスト前に何を勉強したら良いか、明確に分かるようなテスト勉強用プリントを出し、基本問題中心に出題することで得点率は上がった科目がある。</p> <p>・大山勉強合宿をとおして、学習が軌道にのってきた生徒が多くなった。</p> <p>△・課題提出はできているが、成績向上に結びついていない生徒がいる。</p> <p>・課題やテストを活用して学力を高めようとする姿勢が二極化している。</p> <p>▲・家庭学習時間は依然として各ステージとも少ない。</p> <p>S1、2は2時間未満。 S3は少しずつ増えているが個人差が激しい。</p> <p>・携帯電話等の使用については、保護者会などを通じて訴えてきているが、全校には徹底できていない。</p> <p>・4点固定についても保護者会などで再三伝えている。</p> <p>・不得意科目に対する意識不足の生徒がいる。</p> <p>・家庭でじっくりと学習に取り組む習慣が身につけていない生徒がいる。</p>	<p>C</p>	<p>・ステージで適切な量の課題を出し、ステージで一括管理する。</p> <p>・授業時に復習しやすいプリントを配布する。</p> <p>・生活の軌跡を活用した面談指導の継続。</p> <p>・不得意科目克服への意識付けを継続的に行う。</p> <p>・生徒会活動での生徒の主体的、自主的な取組が、学習意欲の向上につながるよう工夫する。</p> <p>・様々な学習機会を有効活用するよう指導を繰り返す。</p>

	<p>①キャリア教育の充実 ・チャレンジグループ活動の充実</p>	<p>○推薦図書の要約や大学の教授及び卒業生による指導により、探究活動を深めることができている。</p> <p>○S1での講演会をとおして、働くことや学ぶことの意義などについて理解を深めることができている。</p> <p>○S2でのフィールドワークイン関西研修では、事前学習を計画的に実施したことで、充実した研修を行うことができている。</p> <p>○多くの生徒がボランティア活動にも参加し、社会性を自主的に高めている。</p> <p>○チャレンジグループ活動における個人記録により、活動のねらいを焦点化することができる。</p> <p>○各ステージとも進路選択とチャレンジグループのミスマッチは減り、生徒の進路選択の一助となっている。</p> <p>○自分と社会との関わりを意識した生徒が出てきた。</p> <p>▲チャレンジグループ活動は充実してきたが、中にはまだ受身的な生徒もいる。</p>	<p>・自分と社会との接点を意識し、社会全体や地域に貢献したい意思を強く持っている。</p> <p>・ボランティア活動に積極的に参加し、社会性及び進路意識を高めている。</p> <p>・生徒が特別授業や課外授業に積極的に参加している。</p> <p>・生徒がオープンキャンパス参加や志望校調べなど、進路について積極的に考え行動している。</p> <p>・学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、意欲的に学校行事等に参加している。(パイオニアホーム)</p> <p>・チャレンジグループ活動をとおして、自らの使命を明確にし、将来、社会に貢献できる力を身に付ける。</p>	<p>・利他心の涵養を図るため、ボランティア活動への参加を奨励する。特にS1、2生に早期からのボランティア活動への参加を奨励する。</p> <p>・生徒の向学心を喚起するため、有用な情報を適宜発信する。</p> <p>・フィールドワークイン関西研修を含め、チャレンジグループ活動をより充実させることで、生徒の進路意識の喚起を促す。</p> <p>・プレゼン型の面接をより推進し、生徒の視野を広げ、将来設計を描かせる。</p> <p>・新聞や図書館資料等、情報源の有効活用法を具体的に指導し、探究を深めさせる。</p> <p>・オープンキャンパスやシンポジウムへの参加等、大学の教育力を有効活用する。</p>	<p>○ボランティアには多くの生徒が参加。</p> <p>・個人面談や進路講演会等を通して、進路情報を適宜伝えている。</p> <p>・OCや各種イベントの案内をし、生徒も参加。</p> <p>・オープンキャンパス参加者 鳥大(湖山)：29名、鳥大(米子)：24名 鳥根大：31名</p> <p>・卒業生の有効活用。 ステージ別保護者会・チャレンジグループ活動</p> <p>・S1・2進路講演会実施。 夏休みを利用して、パイオニアホーム独自の活動を行っている。</p> <p>・新聞や図書資料の活用を意識的に取り組んでいる教科もある。</p> <p>・チャレンジグループ活動の個人研究の進捗状況をこまめに把握し、研究に対するアドバイスを行うことで、活動の充実と生徒の意欲喚起に努めた。</p> <p>・講演会での話を聞く姿勢が良くなった生徒が増加。</p> <p>△プレゼン型の面接は不十分。</p> <p>・新聞や図書の利用は不十分</p> <p>・ボランティアに多くの生徒が関わり、S1生の参加も目立つようになった。しかし、積極的に参加する生徒が固定化する傾向があり、全く参加した経験が無い生徒もある。</p> <p>・ボランティア参加者は多いとは言えない。</p> <p>・フィールドワークイン関西に対する生徒の意欲は高いとは言えない。</p>	<p>B</p>	<p>・プレゼン型の面接の実践例を教員に周知する。</p> <p>・新聞や図書をもっと利用する。</p> <p>・単に、ボランティア募集の案内を流すだけでなく、チャレンジグループ活動の時間などをとおして、仕事のやりがいやボランティアの意味などを積極的に伝えていく。</p> <p>・ボランティア活動への参加を積極的に呼びかける。</p> <p>・パイオニアホームの生徒に、チャレンジグループ活動の場で、ボランティア体験の発表機会を設ける。</p> <p>・オープンキャンパスの意義について説明し、主体的に参加しようとする雰囲気を作る。</p> <p>・フィールドワークイン関西の事前研修を充実させる。</p> <p>・小論文や面接指導をはじめ、様々な指導の機会を通して、ボランティア活動やチャレンジグループ活動などの体験を通して学んだことを分析させ、今後の進路実現や社会で生きていくうえでの糧へと昇華させる。</p>
<p>人間力を高める生徒指導</p>	<p>②進路指導の充実 ・明確な将来の目標設定 ・進路選択への意欲喚起</p>	<p>○必要に応じて進路面談を実施し、進路目標設定や修正を適宜実施するよう取り組むとともに、進路実現に向けて考査等の意義、重要性を指導した結果、生徒が積極的に取り組むようになった。</p> <p>▲志望理由書については、大学研究が十分でないため、「借り物」の志望理由書になっているケースが多い。</p> <p>▲具体的な進路決定が遅かったり、受験の終盤になってから初めて「本気」になる生徒が多く、さらなる指導の徹底が必要。</p> <p>▲受験(特に推薦の面接・小論文)に必要な専門的知識が不十分な生徒が多い。</p> <p>▲担任と副担任との連携をさらに図るとともに、プレゼン型の進路指導の研究を深める必要がある。</p>	<p>・国際的視野に立って、自らの将来を考えることができる。</p> <p>・自分の進路設計を早期に持って、その実現に向けて意欲的に取り組むことができる。</p> <p>・将来を意識し、上級学校等における「学び」に向けた行動をしている。</p> <p>・「行くことができる」ではなく「行きたい」「なりたい」という意識を持ち、その実現に向けて努力を厭わない姿勢を有している。</p> <p>・ボランティア活動やシンポジウム等に積極的に参加し、自分と社会とを結びつけようとしている。</p>	<p>・チャレンジグループ活動で、国際的に貢献している方を招き、国際的な視野を広げさせる。</p> <p>・プレゼン型の面談を充実させ、進路目標を早期に設定させる。</p> <p>・全国や海外で活躍されている先輩を招へいし、目標設定の一助とする。</p> <p>・日々の教育活動の中で、小さな成功体験を積み重ねることで、活動意欲を喚起する。</p> <p>・チャレンジグループ活動や講演会等をおとして、見聞を広めさせ、進路選択の幅を広げる。</p> <p>・「学び」や進路選択に関する情報提供を積極的に行う。</p> <p>・面談など折に触れ、進路指導室利用を呼びかけ、利用を促進する。</p> <p>・教職員に対する進路指導研修を行うとともに、進路指導に関する情報共有を行う。</p> <p>・進路についての研究を、ステージ3団・キャリア支援グループを中心に行い、生徒に説得力を持った指導を実施する。</p> <p>・進路研修の一環として、他ステージの進路検討会へ積極的に出席する。</p>	<p>○国際的な視野を広めさせるための活動として、国際貢献講演会を企画。10月に実施予定。</p> <p>・進路講演会・鳥大連携事業を活用し、進路選択の一助としている。</p> <p>・西高祭や球技会など、生徒主体の行事で生徒の主体性を重んじ成功体験を積み重ねている。</p> <p>・受験情報など適宜情報提供を行っている。</p> <p>・S3の大山勉強会参加者：95名</p> <p>・生徒との面談を7月までにおよそ3回以上行うなど個々への進路指導を高い頻度で実施できた。</p> <p>△チャレンジグループ活動の広がりに欠ける。</p> <p>▲生徒に成功体験をさせることが十分ではない。</p> <p>・教職員の進路研修も不十分。</p> <p>・拡大ステージ会の参加者が少ない。</p> <p>・進路室利用はS3にとどまっている。</p> <p>・自分の進路について、明確に意思表示できる生徒が少ない。</p> <p>・進路目標が「大学進学」で留まっている生徒が多い。</p>	<p>B</p>	<p>・教職員対象にチャレンジグループ活動の研修を検討する。</p> <p>・小論文用の冊子の活用を推進する。</p> <p>・拡大ステージ会参加の意識付けを強化する。</p> <p>・面接指導や小論文指導など教員に対する研修を機会を逃さず実施する。</p> <p>・進路LHR、志望校選択の機会に進路室利用を促す。</p> <p>・進路情報や講演会など、情報発信に努める。</p> <p>・ボランティア活動など、進路に関する取組に参加した生徒に対し、その事後指導を充実させる。</p> <p>・継続して面談指導を行い、今後生徒が弱気になることも想定しながら挑戦すること、自らを高めることの大切さを合わせて進路指導をしていく。</p> <p>・教科担当とホーム担当の連携を強化させ、生徒への対応の共通理解を図る。</p>

○：改善が見られ、良好な現状  
▲：今後、改善が必要な現状

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し  
【90%】 【80%】 【60%】 【40%】 【30%】